

16日	要請 日本労働組合総連合会沖縄県連合会 会長仲村信正氏 オリオンビール・アサヒビール寄付金贈呈式
	表敬 (株)TOKYO AIM代表取締役社長 村木徹太郎氏ほか
	第43回 婦人の主張中央大会
17日	表敬 (財)全国高等学校体育連盟会長 三田清一氏ほか 第65回国民体育大会沖縄県選手団結団式
	国際ロータリー加盟認証状伝達式・祝賀会
19日	女性の翼 国際交流事業2010
20日	新100歳長寿者慶祝訪問
21日	台風11号被害状況視察
22日	県不発弾保管庫等視察 富田詢一琉球新報社長就任懇親会
23日	真栄里大綱引き
24日	東京出張
27日	人事委員会委員への辞令交付式
29日	第45回琉球新報賞贈呈式・祝賀会

1日	日本分蜜糖工業会創立50周年記念式典・祝賀会
	面談 沖縄担当大臣 馬淵澄夫氏
2日	第46回テレビと生涯学習研究協議会全国大会
3日	江戸千家不百会沖縄支部30周年記念祝賀会
4日	第8回沖縄県緊急総合経済対策連絡会議
	寄付金贈呈式 オリオンビール株式会社 代表 取締役 嘉手苅義男氏
5日	面談 内閣府副大臣 末松義規氏 OIST国際シンポジウム
6日	要請 沖縄ハンアメリカン連合会 会長 大山盛穂氏 中華民国99年双十節國慶レセプション
7日	人事委員会勧告手交 九州地区商工会青年部合同研修会
8日	平成22年防犯功労者等表彰式
9日	沖縄県振興推進委員会
10日	第40回那覇大綱挽
12日	要請 沖縄発のJリーグを誕生させる会
13日	東京出張(～14日)
15日	第5回沖縄平和賞授賞式



県政フラッシュ

10/2

馬淵沖縄担当大臣が来県 仲井眞知事と沖縄振興など諸問題について意見交換



馬淵大臣に要請する仲井眞知事

就任後初めて来県した馬淵澄夫沖縄担当大臣を県庁で迎えた仲井眞知事は、会談の場で、普天間飛行場の県外移設について、日米共同発表を見直し、同飛行場の県外移設に取り組むよう要望したほか、尖閣諸島をめぐる諸問題への適切な対応、「沖縄21世紀ビジョン」の実現に向けた新たな沖縄振興の枠組みの構築など12項目について要望した。

仲井眞知事から要請を受けた馬淵沖縄担当大臣は「要請について、ひとつひとつ協議を重ねながら進めていきたい」と話した。

また、沖縄振興特別措置法に代わる措置について、「真の自立をめざした新たな特措法の見直しも含め政府、県民一体の取り組みが必要だ」と述べ、沖縄政策協議会や沖縄振興審議会で検討する考えを示した。

9/20

新100歳長寿者慶祝訪問



新垣ヨネさんに祝状を贈る仲井眞知事

敬老の日の9月20日、仲井眞知事は、新100歳を迎えた新垣ヨネさん(糸満市)を訪ね、祝状と記念品の琉球漆器を贈り長寿を祝った。

仲井眞知事は「100歳の長寿を達成されたことを心からお祝い申し上げます。これからももっともって長生きしてください」と祝辞を述べ、新垣さんらとともに100歳記念の植樹や記念撮影を行った。

県内で、今年度100歳を迎える方は307人(女性275人、男性32人)で、100歳以上の長寿者は922人。人口10万人あたりの100歳以上長寿者は、島根県に次いで全国第2位である。

10/15

第5回沖縄平和賞授賞式 「シェア」に贈賞



沖縄平和賞を受賞した「シェア」の本田代表理事(右から2人目)と沢田副代表理事(右端)

アジア太平洋地域の平和の構築・維持に貢献した個人や団体を顕彰する沖縄平和賞の授賞式が名護市の万国津梁館で行われた。

今回は、アジア・アフリカを中心に、プライマリ・ヘルス・ケアのアプローチに基づいて活動を行う「シェア=国際保健協力市民の会」が受賞し、仲井眞知事から本田代表理事と沢田副代表理事に賞状と賞牌、副賞が贈られた。

あいさつで仲井眞知事は「これまでの功績に対し、敬意を表する。今後とも沖縄平和賞が、世界の恒久平和の創造に貢献するよう努めていく」と述べ、沢田副代表理事は「活動を評価して下さった沖縄の皆様のご期待に添うためにも、健康を築くための市民の助け合いの輪を更に広げていきたい」と、受賞を機に決意を新たに示した。

9/21

台風11号被害状況視察



被害状況を視察する仲井眞知事

仲井眞知事は、台風11号で被害を受けた石垣島を訪れ、法面崩壊が発生した野底林道や白保や宮良地区の水稻、オクラ、サトウキビの被害状況を視察した。

担当者から被害の程度や復旧までの見通しなどの説明を受けた仲井眞知事は、視察後、「農家の皆さんが被害を最小限に抑えるような対策をとっているのを感じた。被害に遭

われた方々にお見舞いを申し上げるとともに、県としても、なるべく早く対応していきたい」と述べた。

台風11号による八重山地方の農作物の被害は2億1800万円余りに上っている。

- 2 県政フラッシュ
- 4 特集1 第5回世界のウチナーンチュ大会
- 6 特集2 高齢者の権利を守ろう!
- 8 特集3 いきいきと広がるソーシャルビジネスの輪
- 10 比べてわかるみんなのシゴト白書 食を提供するシゴト
- 12 県のうごき1 離島フェア2010
- 13 県のうごき2 地中に埋もれた歴史を発見!
- 14 情報ひろば お知らせ
- 16 つながる広がる人・モノ・文化 地域物語 食物アレルギー対応委員会(久米島町)

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」について

*

沖縄県広報雑誌「美ら島沖縄」は、県の施策や情報をわかりやすく県民のみなさまにお伝えする冊子です。公共機関や学校、銀行、病院など多くの方が利用する施設でご覧になることができるほか、沖縄ファミリーマートの店舗で無料配布しています。

本号とバックナンバーは県広報課ホームページでご覧になれます。

沖縄県知事公室広報課
TEL.098-866-2020
http://www.pref.okinawa.jp/churahome/

沖縄の人口 世帯の動き

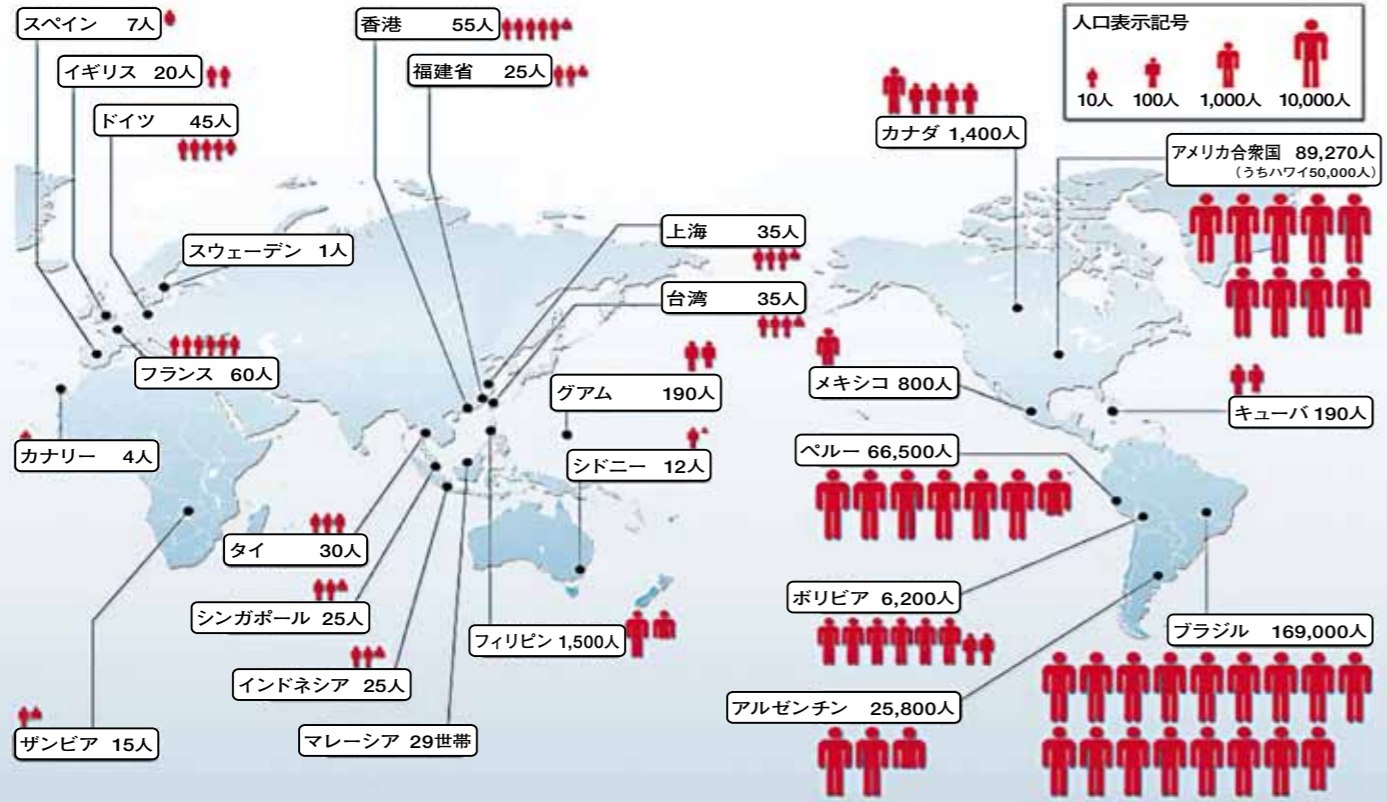
平成22年9月1日現在



県系人分布地図

※2005年3月調査

WORLD WIDE UCHINANCHU MAP



第4回世界のウチナーンチュ大会前夜祭パレード：シカゴ県人会

1世たちは海を越え想像を絶する過酷な状況の下で懸命な努力を続け、ひとつの時代を乗り越えた。
2世たちは1世の後姿から多くのことを学び、前進・奮起して次の世代のための足場を固めた。
そして、ウチナーンチュのアイデンティティーが、3・4・5世へと引き継がれ、
第1回大会開催から20年の時を超え、来年、第5回世界のウチナーンチュ大会が開催される。

沖縄県では、世界に雄飛し、活躍している県系人を沖縄の貴重な人的財産であると考えており、若年層の交流のための「ジュニアスタディーツアー」「ホストファミリーバンク推進事業」など、ウチナーンチュネットワークを担う世代を育成するための事業に取り組んでいます。

また、多角的な国際交流や相互の発展につながるため、世界に在住する「ウチナーンチュネットワーク」を強化・拡充し、世界各国・地域との持続的な交流促進を目的とした施策を展開しています。

沖縄はかつて、世界の国々をつなぐ架け橋、すなわち「万国津梁（ばんこくしんりょう）」を国是とした琉球王国の歴史を有しています。沖縄県では、約三十六万人もの海外県系人の方々を「現代における万国津梁の民」とし、さまざまな分野において、彼らと連携・協力していくことがますます重要であると考え、世界的なウチナーンチュネットワークづくりのため、一九九〇年に「第一回世界のウチナーンチュ大会」を開催しました。その後、ほぼ五年に一度の割合で継続実施し、二〇〇六年には第四回大会を開催しています。

「第一回世界のウチナーンチュ大会」が開催されます。今回は、主会場を「沖縄セルラースタジアム那覇」とし、大会前日の十二日には、前夜祭として、国際通りで世界各国のウチナーンチュがパレードを行う予定です。

県民の皆さま、世界のウチナーンチュを温かくお迎えください。そして、この機会に世界のウチナーンチュとの交流を深めましょう。

来年開催!! 「第5回世界のウチナーンチュ大会」

第5回大会プレ・イヤーイベント：ジュニアスタディーツアー



「世界のウチナーンチュ大会」とは

沖縄県では、世界に雄飛し、活躍している県系人を沖縄の貴重な人的財産であると考えており、若年層の交流のための「ジュニアスタディーツアー」「ホストファミリーバンク推進事業」など、ウチナーンチュネットワークを担う世代を育成するための事業に取り組んでいます。

戦後における沖縄の復興と今日の発展は、これらの海外移民の支援なしには考えられません。



第4回世界のウチナーンチュ大会前夜祭パレード：県民による歓迎

皆さん、世界にどれくらいウチナーンチュ(沖縄県系人)が住んでいるか、知っていますか。両親ともにウチナーンチュ、両親のどちらかがウチナーンチュなど、世界各国には、現在、三十六万人を超える沖縄県系人が生活しているといわれています。

国も地域もさまざまですが、特に移民の多かった南米地域ではおよそ二十七万人、北米地域にはおよそ九万人もの県系人が居住しています。彼らはその移住先に定着し、現在、各国社会の構成員として政治、経済、文化、学術などの各方面で活躍するだけでなく、その国の開発や発展にも貢献し、高い評価と信頼を得るとともに、我が国との国際交流・友好親善に重要な役割を果たしています。

世界に広がるウチナーンチュ!

琉球王朝時代から盛んに東シナ海を舞台にアジア諸国との交易を行っていたウチナーンチュの先人たちは、その後、移民として海外へ雄飛しました。

沖縄の海外移民は、一八九九(明治三十二年)年に沖縄を出発した二十六人が、一九〇〇(明治三十三年)にハワイに到着したことから始まりました。その後、南北アメリカ大陸のほか東南アジア、南洋群島、台湾、満州へ続々と海を渡りまわりました。

「もーきていくーよー(儲けて来いよ)」の声に送られてやって来た土地では、想像を絶する厳しい労働と言語や習慣の違いなど、多くの苦難が立ちました。

しかし移民者たちは、持ち前のバイタリティーとユイマール、イチャリバチョーデーの精神で筆舌に尽くしがたい多くの困難を乗り越え、互いに助け合いながら一致団結して、今日の繁栄の基礎を築きました。

戦前において、移民先からの送金は疲弊している県経済の救済に大きな貢献をしていました。例えば、一九二九(昭和四年)の海外移民からの送金額は、百九十八万円に上り、当時の沖縄県歳入総額三百万円(の六十六パーセント)に相当するほどでした。

また、太平洋戦争直後の壊滅的な打撃を受けた沖縄を物心両面から支えたのも移民先からの惜しみない温かい支援でした。ハワイの県系人を中心に結成された沖縄救済会が中心に結成された沖縄救済会が中心に結成された沖縄救済会が中心に結成された...

沖縄移民の歴史と功績

お問い合わせ 第5回世界のウチナーンチュ大会事務局 TEL:098-866-2762 FAX:098-866-2328



沖縄国際アジア音楽祭 平成23年3月18日~20日開催!



沖縄国際アジア音楽祭 平成23年3月18日~20日開催!

高齢者の権利を 守ろう！

「高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らしたい」
誰もが願うその思いを実現するため、高齢者の尊厳を守り、高齢者とその家族が安心して暮らせる地域社会をみんなで作りましょう。



「高齢者虐待は身近に起こりうる問題です」

平成十八年に「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（以下、高齢者虐待防止法という）」が施行され、高齢者虐待についての周知や理解が徐々に進んできました。しかし、高齢者虐待は当事者に自覚がなかったり、虐待を受けていても周りに助けを求めることができない場合もあり、周囲には見えにくいものです。

どうして虐待がおこるの？

虐待がおこる背景にはさまざまな要因があります。認知症への対応の仕方がよく分からない、介護の負担をひとりで抱えている、また、介護する家族自身が失業などで生活に困っている、病気や障害を抱えている場合もあります。そういった時、介護する家族が心身ともに疲労し、追い詰められて虐待につながるケースもあります。

高齢者虐待防止法では、虐待をしている家族も支援の対象としています。高齢者虐待は誰もが直面するかもしれない問題です。高齢者を介護する家族が孤立しないよう地域全体で見守り、支援していくことが大切です。

認知症の人も持っている「その人らしさ」

虐待を受けている高齢者には認知症の症状がある場合が多いです。これは、認知症介護の難しさが背景にあるといえます。介護する家族も身近な人が認知症になったことを受け入れることが困難で、つい失敗したことを怒ったり、強く否定してしまいがちです。しかし、こういった態度や接し方は認知症の人の自尊

心を傷つけ、感情が不安定になったり攻撃的な行動につながったりします。

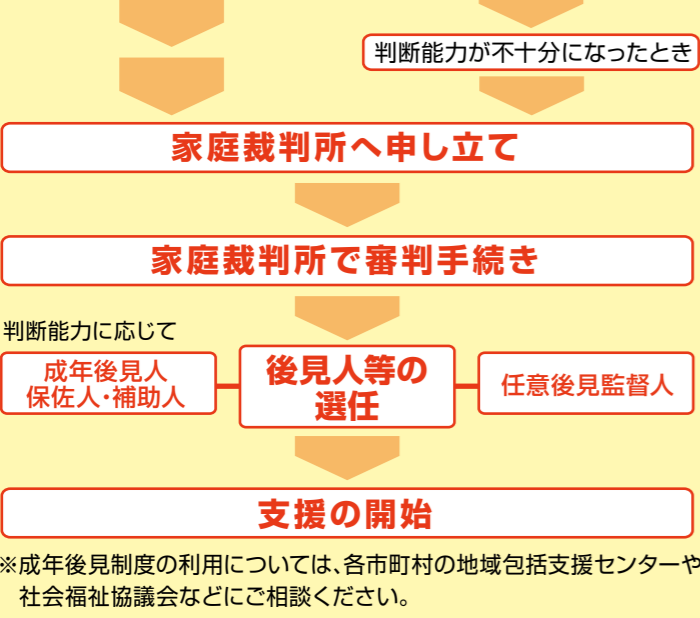
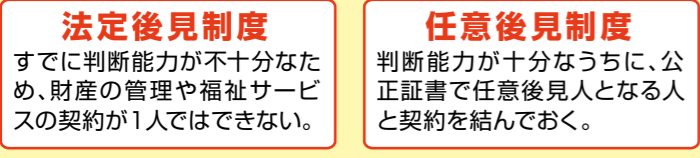
こうした症状も、認知症の人が安心して過ごせるよう周囲の人たちがサポートすれば、緩和させることが可能になります。そのためには、介護をひとりで抱え込まず、介護保険制度をはじめとする公的なサービスやボランティア、地域の支え合い活動などの支援を受けることが大切です。

認知症の人もそれぞれに個性やこれまで生きてきた歴史をもっています。認知症の人ももっている「その人らしさ」を大切に、無理のない介護を続けていきましょう。

成年後見制度の利用を考えてみましょう

成年後見制度とは、認知症や知的障害などにより、判断能力が不十分な人の日常生活を法的に保護する仕組みです。経済的虐待を防ぐため、また悪質商法の被害を受けないよう、認知症などで判断能力が低下した場合は、成年後見制度の利用を考えてみましょう。家庭裁判所が選任した成年後見人が、本人の財産の管理や介護・福祉サービスの利用、医療・福祉施設への入

成年後見制度利用までの流れ



退所の手続きなど、日常生活にかかわってくる契約などの支援を行います。

高齢者に関する相談は市町村の地域包括支援センターへ

高齢者虐待や高齢者の権利擁護にかかる相談、成年後見制度については、各市町村に設置されている地域包括支援センターにご相談ください。

そのほか介護に関することや健康に関することなど、地域包括支援センターは、高齢者が地

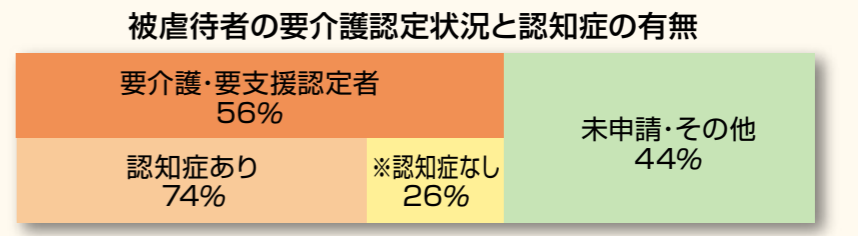
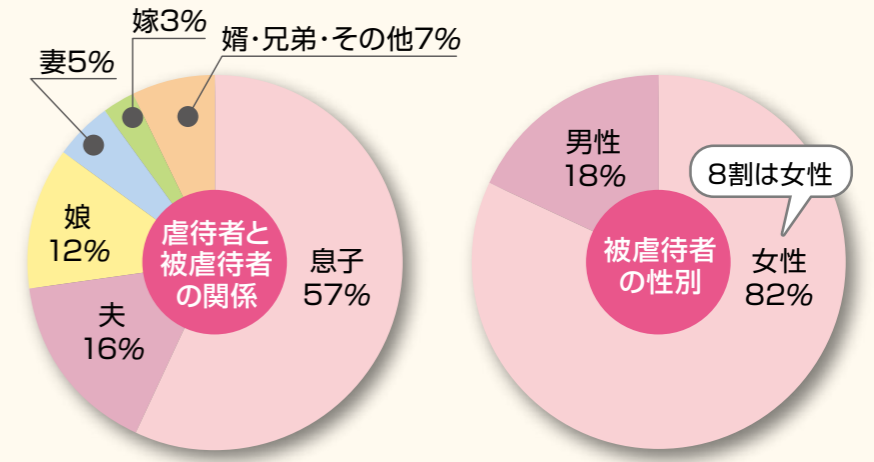


域で安心して暮らせるよう高齢者に関するさまざまな相談を受けています。

高齢者虐待を未然に防ぐには、日頃から、高齢者とその家族を見守る地域が必要です。

高齢者虐待の実態はどうなっているの？

平成二十一年度に県内で虐待を受けた高齢者の数は百二十人に上りますが、その八割は女性



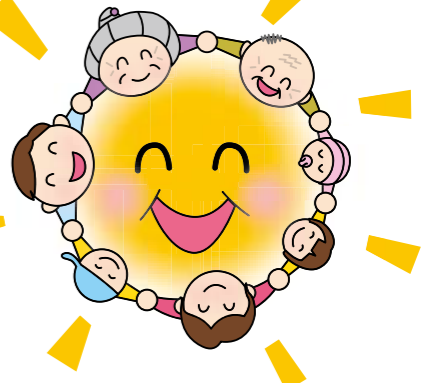
介護の必要な高齢者、認知症を持った高齢者が多い

資料：沖縄県の高齢者虐待の状況（平成21年度高齢者虐待防止法に基づく対応状況調査(厚生労働省)より）

お問い合わせ ● 県高齢者福祉介護課 TEL:098-866-2214 FAX:098-862-6325

いきいきと広がる ソーシャルビジネスの輪

～ゆいまーる精神の復活を～



世の中には、経済原理や競争原理を単純に活用しても、解決できないさまざまな社会的課題がたくさんあります。
例えば、地域おこし、障害者支援、子育て支援、貧困問題などは、多くの無償ボランティア、NPO(非営利団体)や、一部の方々の多大な努力や支援により支えられているのが現実です。
そこで今、その解決の手法のひとつとして注目を浴びているのがソーシャルビジネスなのです。

ソーシャルビジネスとは？

ソーシャルビジネスとは、社会的課題の解決を図る取り組みを、持続可能な事業として展開することです。それは、「ボランティア」でもなく単なる「営利企業」でもない、ビジネスの手法を用いて新たな社会的商品やサービスを生み出す新しい取り組みです。これは、近江商人(おみしょうにん)の家訓として有名な「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の概念に似ているといわれています。

では、具体的なソーシャルビジネスってどんなものなのでしょうか？



沖縄では、今から百年以上前から続く「共同売店」があります。

「共同売店」は、単に商品の売り買いにとどまらず、地域の人が必要とするさまざまな事業を行っていました。例えば、「教育資金の貸付」「保育園」「共同バス」「発電」まで行うところもありました。地域の人々が、必要なサービスや物資の調達を助け合いの精神、すなわち「ゆいまーる」で地域を育んできたのです。
昔は普通にあつた地域のつながりや助け合いの精神が、まさにソーシャルビジネスそのものなので、沖縄での取り組みが全国からも注目されています。
国の方でも、ソーシャルビジネスなどを「新しい公共」という言葉を用いて、各種の補助金等での支援体制を構築してきています。

事例1

障害者の働く場、
地産地消、若者の活躍の場
を作る三方よし



那覇市のコークンパンにある「パンの家アトリエ種子」では、「いらっしやいませ」「ありがとうございます」「さいました」と、メンバーが緊張しながらも笑顔で接客を行っています。

「パンの家アトリエ種子」は、「障害者に働く場をつくる」という福祉の課題に、生協・企業・行政がタッグを組んで積極的にかかわり、地域特産品を活用した商品開発も行いつつ、消費者もその商品を買うことで障害者の社会的自立を支える取り組みです。
「パンの家」では、一般企業と同じように雇用契約を結び、時給が支払われることから障害者にとっては大幅な収入増となり、将来的な自立へと大きく前進します。
さらに店舗リニューアルに際しては、外観、内装、ロゴマーク、制服などのデザインについて、沖縄県立芸術大学と連携した取り組みも行いました。



石原修サポーター本部長補佐は「生協は消費者が作った助け合いの組織。その思いをもった組合員がいるからこそチャレンジできる。企業や行政など、異なる分野の『プロ』がノウハウを生かして『つながる』ことで新しい可能性が生まれる」と説明しています。
今、障害者が社会とつながり、いきいきと働くことで、地域の人たちの障害者に対する理解が深まり、地域の支持が広がっています。

事例2 医療と福祉を中心とした 地域おこし

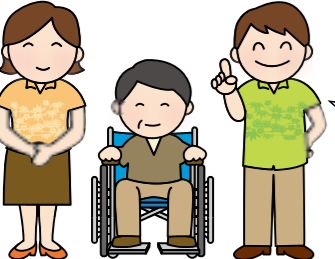
那覇市の栄町では、医療と福祉を中心とした街おこしの社会実験プロジェクトが始まっています。
医療法人陽心会、栄町市場商店街振興組合などで構成される「大道医療と福祉を考える会」は、地元の人々の商店街や地域のサービス事業者など、従来からある地域の資源を生かして経済産業省の医療介護周辺サービス創出事業を活用し、地域の中・高年の若返りと街の活性化をめざして取り組んでいます。プロジェクトの内容としては、商店街その



域への波及も大きく期待されます。

沖縄県の取組み

県では、ソーシャルビジネスのモデル化を図り、県民の皆様に広く周知することを目的として、三つの団体に対して支援事業を実施しています。
「沖縄タレントハビリテーションセンター」は、覚醒剤、有機溶剤(シンナーなど)そのほかの薬物から開放されるためのプログラムをもつ民間の薬物依存症リハビリ施設です。同センターでは、講演会や教育現場への啓蒙活動、



「沖縄を良くしたい」「地域を良くしたい」「社会の課題を解決したい」などの純粋な思いを持った人たちが立ち上がっています。いきいきと活動するソーシャルビジネスの輪にあなとも加わりませんか。

連絡先	
支援などについてのお問い合わせ	
沖縄総合事務局経済産業部地域経済課	☎ 098-866-1730
県産業政策課	☎ 098-866-2330
NPO設立についてのお問い合わせ	
県民生活課	☎ 098-866-2187
ソーシャルビジネス全般についてのお問い合わせ	
特定非営利活動法人 しまんちゅビジネス協議会	☎ 098-894-5939

お問い合わせ ● 県産業政策課 TEL:098-866-2330 FAX:098-866-2440



沖縄国際アジア音楽祭
平成23年3月18日～20日開催!



沖縄国際アジア音楽祭
平成23年3月18日～20日開催!

お気軽に参加してみませんか?

合同就職説明会・面接会を開催します!

このイベントは多くの企業の採用担当者と直接話せる絶好のチャンス!会場には、就職活動に役立つセミナーや就職相談コーナーもあります!

- ◆日時/場所
 11月6日(土)午後1時半~5時
 宜野湾市立中央公民館
 11月12日(金)午後1時半~5時
 JAおきなわ宮古地区本部2階大ホール
 11月13日(土)午後1時半~5時
 大川公民館(石垣市)
 12月4日(土)午後1時半~5時
 沖縄市民会館
 ◆問合せ先 マッチポイント(事務局)
 ☎098-861-2773
 (URL) <http://mp-okinawa.jp>

介護サービス業でグッジョブフォーラム

少子高齢化によりニーズが増加する福祉・介護業では、求人と求職のミスマッチが課題となっています。今回、介護に関心を持つ方々に介護の現場をより一層理解してもらうことを目的に、介護フォーラムを開催します。

- ◆日時 12月1日(水)午後2時~4時
 ◆会場 那覇市ぶんかテンプス館 4階ホール
 ◆内容 ○「笑う介護士」袖山卓也氏基調講演
 ○介護従事者によるトークセッション
 ◇問合せ先 県産業政策課雇用創出戦略スタッフ室
 ☎098-866-2324
 (URL) <http://www.goodjob-okinawa.info/>

「頑張り過ぎない楽しい子育て講演会」のご案内

県では、ファミリーサポートセンターの会員または、その活動に関心のある方を対象に、講演会を開催します。

今回は、テレビの司会や育児マンガ家として大活躍の高野優さんを講師にお招きし、子育てについてさまざまなエピソードを交えながらお話いただきます。

- ◆日時: 12月5日(日)午後2時~4時
 ◆会場: カルチャーリゾートフェストーネ(旧沖縄ハイム)
 ◆定員: 150人 入場無料
 ◆事前に申し込みが必要です。
 ◇問合せ先 県雇用労政課
 ☎098-866-2366

一日のタイムスケジュール	
8:00	出勤 道具を煮沸消毒し、作業を開始
10:00~11:00	シフト出勤のスタッフとミーティング後、作業を再開
13:00~14:00	昼食
14:00~	作業を再開
17:00	退社

新商品のデコレーションを任せられた時はプレッシャーを感じましたが、アイデアが採用されてうれしかったです。見た目のよさや作りやすさをみながら考え、試行錯誤しながら作ったケーキに対する愛着はひとおです!

将来はウエディングケーキの製作が目標。自分の結婚式でもぜひ作りたいですね。

仕事のツボ アドバイス

必須資格はありませんが、公衆衛生や安全性に関わる国家資格「製菓衛生師」をもっていると有利。食べ物を扱うので健康管理も重要ですし、手にケガをすると仕事ができません。何事も経験が大切なので、失敗を恐れずにがんばって。



一日のタイムスケジュール	
8:30	始業
~9:00	課内ミーティング
9:00~12:00	新商品の試作品づくり
12:00~13:00	昼食
13:00~18:00	課内のディスカッション 素材メーカーとの商談 社内プレゼンの対応など

価格を社内で総合的に検討し、調整。商品が店頭に並んだり、お客さまの喜ぶ顔を見ると、地道な作業も報われます。

五年前、東京のパン学校で三カ月間学ぶ機会があり、小麦粉の素晴らしさを再認識。「本気がかんぱろう」と思いました。今後はパン製造技術士特級の取得をめざし、誰でも手軽においしく作れる「沖縄の味」を提供し続けたいです。

仕事のツボ アドバイス

必須資格は特にありませんが、4年制大学で化学や生物を専攻していたり、栄養士の資格をもっていると有利。学生のうちに、地域の行事やアルバイトなどで幅広い年齢層の人脈を作っておくと、就職にも人生にも生かせると思いますよ。



パティシエール



株式会社ジミー 大山工場
ベーカリー製造部仕上げ室
稲嶺明日香さん(勤続11年目・28歳)

お 客さまの喜ぶ顔を想像しながら製作

昔からお菓子作りが好きだったので、商業高校卒業後、ケーキを作る仕事に就きました。

最初の七年間は店舗へ配属。お客さまの目の前でケーキを作るので、緊張しますが反応がすぐ返ってくるうれしさがありました。工場勤務の

今でも、パースデーケーキのメモ欄を見て、お客さまの顔を想像しながら作っています。

技術向上と新しいアイデア探しが日課

休みの日は、ドライブがてらケーキ屋巡りもします。作っている様子をつい凝視したり、ケーキを分解して中を調べてしまうのが職業病。

研究開発



沖縄製粉株式会社
研究開発室開発課 主任
あき 石川愛貴さん(勤続8年目・31歳)

華 やかに見えるけれど根気の要る仕事

本土の大学で生物学を専攻。地元食品メーカーへの就職を希望し、研究職に運良く空きがあったのが今の会社です。子どもの頃、親子パン教室で出会った素敵な先生が、職場の大先輩という不思議な縁にも驚いています。

め こだわっているのは「沖縄の食文化の創造」

商品開発は型にはまらない遊び感覚が大事。課内でアイデアを出し合い、材料の種類や配合を少しずつ変えて何度も試作を重ねます。0.1%の配合の違いで食感が変わり、完成に二年かかった商品もあります。

新商品は味付加価値パッケージ。



食を提供するシゴト

パティシエールと研究開発

今回は食の分野で働く二人。専門の技術や知識を生かし、情熱を持って「みんなが喜ぶおいしさ」を提供していました。

- その他の「食を提供するシゴト」
- 調理士
 - フードコーディネーター
 - 食品輸入 など

みんなのグッジョブ白書

仕事や職場を決めた理由、やりがいやターニングポイントなど、同じジャンルで職種が違う二人の先輩が仕事の本音を語ります。みんな迷って悩んで今がある!就活世代に役立つヒントがいっぱいです。

離島フェア2010 「集まれ・触れ合え・味わおう 離島ファン」

十一月二十六日(金)から三日間、那覇市奥武山町の沖縄セルラーパーク那覇で離島フェア2010が開催されます。



離島フェアとは

離島フェアは、離島の産業振興と併せて、地域間交流を促進するとともに、新たな地域資源を発掘し、住民自らの創意工夫による地域づくりを支援することを目的に平成元年度から毎年開催しています。今年度は、四月に新しくオープンした『沖縄セルラーパーク那覇(屋内練習場)』に会場を移し、新しい離島フェアを開催します。新たな会場により一層多くの方々に島々の魅力を感じていただくため、離島の資源を生かした特産品の展示即売会や伝統芸能公演など多彩なイベントを予定しています。

県内の十八離島市町村が一堂に会する離島フェア。個性豊かで魅力あふれる島々の笑顔と元気を届けたい。多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

日時
11月26日(金)午後1時～6時
11月27日(土) 午前10時～午後6時
11月28日(日) 午後6時

場所
沖縄セルラーパーク那覇
(那覇市奥武山町)

主なイベント紹介

『特産品の展示即売会』
離島の農林水産加工品、伝統工芸品や泡盛など、伝統的な特産品から新たに開発された商品まで、十八離島市町村の普段なかなか手に入らない特産品が一堂に集結する離島フェアならではの物産展です。

『離島食堂』
離島の素材を生かした名物料理や離島でしか味わえない食が盛りだくさんの離島食堂。離島グルメを存分にお楽しみいただけます。

また、新たな企画として「島のメニューコンテスト」を開催します。離島グルメを堪能した後は、お気に入りのメニューにご投票をお願いします。

【伝統芸能公演】
各離島の個性が溢れる伝統芸能や離島出身者による島唄ライブを行います。

【その他各種イベント】
親子黒糖づくり体験や離島の風景、日常を描いた絵画コンクール展、フォトコンテスト展も同時開催します。



※親子黒糖づくりは参加人数に制限があります。

資料整理とは?

遺跡の発掘調査で得られた出土品・遺物は、次の手順で整理し、報告書を刊行します。

- ① 水洗い
掘り出した遺物は、ブラシやハケで水洗いして土や汚れを落とし、形や文様がよく見えるようにします。
- ② 注記(ナンバリング)
遺物は一個ずつ遺跡名などの情報を書き込んで整理します。
- ③ 分類・接合
遺物は材質や形、文様によって分類・集計され、破片同士をパズルのように組み立てて、できるだけ元の形に戻します。
- ④ 復元
接合作業で、どうしても破片が見つからない場合は、石膏などで補って形がわかるようにします。
- ⑤ 実測・製図
報告書に載せる遺物は、大きさや形、文様などを細かく計測して実測図を作成します。



報告書に載せる遺物は、大きさや形、文様などを細かく計測して実測図を作成します。

地中に埋もれた歴史を発見!

県立埋蔵文化財センターは十周年を迎えます

平成十二年四月、西原町に開所した県立埋蔵文化財センターは、県内全域で発掘調査を行ってきました。そこで、十年間の集大成として特に重要な成果を紹介する企画展を開催します!

埋蔵文化財センターとは?

海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた沖縄県には約二千五百カ所の遺跡があります。去る大戦で、首里城をはじめとする多くの文化財が焼失した沖縄県では、国内外に現存する文献などのほかに、地中や海底に眠る埋蔵文化財が歴史をひも解く鍵となることが数多くあります。当センターでは、これらの埋蔵文化財の調査・研究・整理・保管、そして教育・学術および文化の発展に資する目的で平成十二年四月、西原町に開所しました。



埋蔵文化財センターの外観

発掘調査とは?
発掘調査はそのきっかけや原因によって大きく三つに分けることができます。まず、遺跡の適切な保護を目的とし、その所在・内容などを把握するための分布調査です。

次に、重要な遺跡の評価を行うための調査や史跡指定された遺跡の整備・保存活用のために行われる調査です。首里城をはじめとする多くの史跡は、現在も発掘調査が行われており、その成果が復元整備に役立てられています。



守礼門付近の真珠道発掘調査

最後は記録保存のための調査です。土地の改変や建設などの開発で現地保存ができなくなった遺跡について、開発に先立ち調査を行うものです。この調査によって得られた記録類は、報告書に集約され、消滅した遺跡に代わって遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。このように、発掘調査の方法も目的に応じて行われますが、調査が行われた遺跡は二度と元に戻ることができないため、より慎重に発掘調査を行う必要があります。



離島フェア2010に関するお問い合わせは...
離島フェア開催実行委員会事務局
☎〇九八一九六三二八一九一

遺構や遺物の出土状況、遺物の分析、実測図、写真などの調査成果を盛り込んだ報告書の刊行後は、コンテナに整理され収蔵庫などに保管されます。

普及事業

発掘された出土品を公開・活用する目的で、当センター内には、常設展示室や体験学習室、企画展示室などが設置されており、一般の方も自由に見学することができます。また、テーマを設けて開催する特別展や沖縄の歴史に関する文化講座なども開催しています。

地中に埋もれていた先人たちの生活の様子や文化を当センターでぜひご覧ください。



県立埋蔵文化財センター
開所 午前9時～午後5時
休所日 毎週月曜日、国民の休日(子どもの日・文化の日を除く)、祝日と休所日が重なった場合は、翌火曜日も休所日。



2010年11月

情報ひろば

イベント

計量のひろば

●日時 11月1日(月)午前10時～午後3時
●場所 パレットくもじ前広場
●内容 パネル展示、各メーター類の展開、果物の重さ当てゲーム、騒音計での大声測定など
●問合せ 県計量検定所
☎098-889-2775

働き方を考えるセミナー

「仕事・育児・人生を笑って過ごす」をテーマに、仕事と生活のバランスのとれた働きやすい職場環境づくりに促進するセミナーを開催します。
●日時 11月10日(水)午後1時半～
●場所 県立博物館・美術館
●講師 安藤哲也氏
●定員 180名(入場無料)
●問合せ 県雇用労政課
☎098-866-2366

精和病院祭

●日時 11月13日(土)午前10時～午後3時
●場所 県立精和病院

11月 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●内容 作品の展示即売、リサイクルバザー、講演・舞台発表など
●問合せ 県立精和病院
☎098-889-1390

「いもの日」記念講演会

●日時 11月16日(火)午後2時～4時
●場所 読谷村福祉センター
●講師 西平朝吉氏(読谷商工会事務局長)
●問合せ 県糖業農産課
☎098-866-2275

沖縄県産教育フェア

県内の専門高校・特別支援学校の生徒達の学習成果を発表します。
●日時 11月19日(金)、20日(土)
●午前10時～午後4時
●場所 県立武道館
●備考 入場無料。那覇軍港よりシャトルバスを運行します。
●問合せ 県教育庁県立学校教育課
☎098-866-2715

沖縄ウッドフェア

●日時 11月20日(土)～23日(火) 午前10時～午後8時
●場所 プラザハウス(沖縄市)
●内容 県産材を用いた木製品の展示即売、親子木工教室など
●問合せ 県森林緑地課
☎098-866-2295

離島フェア2010

●期間 11月26日(金)～28日(日)
●場所 沖縄セルラーパーク那覇
●内容 特産品の展示即売会・伝統芸能公演など
●問合せ 離島フェア開催実行委員会事務局
☎098-963-8191

科学技術大学院大学の公開

●日時 11月28日(日)午前10時～午後4時
●場所 沖縄科学技術大学院大学(恩納村字合茶)
●内容 科学実験・講演・施設見学など
●備考 入場無料
●問合せ 沖縄科学技術研究基盤整備機構
☎098-966-8711

募集

技術講習・医療事務

●対象者 概ね40歳までのパソコン操作が可能な就職を希望する女性
●期間 12月1日～翌年1月14日(月・水・金)午前9時～午後3時
●場所 労政女性就業センター(那覇)申込み 11月15日・16日所申込み
●定員 20人(後日筆記・面接あり)
●受講料 無料(教材費等自己負担あり)
●問合せ 県労政・女性就業センター
☎098-863-1788

労働保険適用促進強化期間

11月は労働保険適用促進月間です。労働保険とは、労災保険と雇用保険の総称で、労働者を1人でも雇用する事業主は必ず加入しなければならぬ政府管掌の保険制度です。加入手続がまだお済みでない事業主の方は、最寄りの労働基準監督署または公共職業安定所へ加入手続を行ってください。
●問合せ 沖縄労働局労働保険徴収室
☎098-868-4038

税務署からのお知らせ

相続や贈与などにより遺族の方などが年金として受給する生命保険金等に関する所得税の取扱いを改めました。
この取扱の変更により所得税の還付を受けることができる場合があります。詳しくは国税庁ホームページをご覧ください。
●お問い合わせ 最寄りの税務署

屋外ステージ出演者募集

募集締切 11月20日(土)
申込方法 申込書・テモ音源・メンバー写真を送付
備考 出演登録料が5千円です。
●問合せ 沖縄国際アジア音楽祭実行委員会事務局
☎098-866-2005



共済加入者募集

【小規模企業共済】
小規模企業の個人事業主、会社などの役員が廃業または退職した場合に共済金などが支払われます。
●加入資格 従業員数20人以下の個人事業主および会社の役員など
●毎月掛金 1千円～7万円(5百円単位)
【経営セーフティ共済】
取引先が倒産し、売掛金債権などが回収困難になった場合に共済金の貸付が受けられます。
●加入資格 1年以上事業を行って個人事業主または会社で「資本金等の額」または「従業員数」が一定の条件に該当する者など
●毎月掛金 5千円～8万円(5千円単位)
●問合せ 県経営金融課
☎098-866-2343

お知らせ

一日合同行政相談所

沖縄行政評価事務所では、国や県市

各施設行事予定表

県立博物館・美術館

☆休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
☎098-941-8200
◆バックヤードツアー
開催日:11月6日(土)
美術館:午前11時～正午
博物館:午後2時～3時
定員:先着各12人(受付午前9時～)
参加費:無料

博物館

◆博物館文化講座「八重山民謡の伝播と変容」
日時:11月20日(土)午後2時～4時(開場1時半)
場所:県立博物館・美術館3階講堂
講師:新城 亘氏
定員:200人(当日先着)
◆特別展「海のクロスロード八重山」
期間:11月23日(火)まで
入場料:一般800円、高校生・大学生500円、小・中学生300円

美術館

◆企画展「母たちの神ー比嘉康雄」展
期間:11月2日(火)～翌年1月5日(水)
入場料:大人1,000円、高校生・大学生700円、小・中学生300円

県立埋蔵文化財センター

☆休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
☎098-835-8752
◆企画展「10周年展～埋文センター10年の歩み～」
期間:11月21日(日)まで
入場料:無料

沖縄県知事選挙

●投票日 11月28日(日)午前7時～午後8時(※竹富町は11月27日)
●期日前投票 11月12日(金)～27日(土)
●投票場所 投票所入場券を確認
●問合せ 各市町村選挙管理委員会
入札参加資格申請受付
平成23・24年度の入札参加資格申請受付を行います。

町村など関係機関の協力を得て「一日合同行政相談所」を開設し、県民皆さまの行政に対する苦情や要望にお答えします。
●日時/場所
11月10日(水)午前10時～午後4時 / 糸満市役所
11月12日(金)午前10時～午後4時 / 宜野湾市中央公民館
●問合せ 沖縄行政評価事務所
☎098-867-1100

【建設工事の受付期間】
県内に本社のある建設業者
12月1日(水)～14日(火)
県外に本社のある建設業者
平成23年1月11日(火)～21日(金)
【測量・建設コンサルタント等の受付期間】
本島・周辺離島のコンサルタント業者
12月1日(水)～14日(火)
県外・宮古・八重山のコンサルタント業者
平成23年1月11日(火)～21日(金)
●問合せ 県土木企画課
☎098-866-2384

麻薬覚せい剤乱用防止運動

「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に10月1日から11月30日まで沖縄県麻薬・覚せい剤乱用防止運動を実施します。薬物に関する相談は、最寄りの保健所または総合精神保健福祉センターの相談窓口をご利用ください。
●問合せ 県業務衛生課
☎098-866-2215

県広報課からのお知らせ



11月 放送予定

- 6日・7日 児童虐待防止対策について
- 13日・14日 沖縄の看護問題とそのアプローチについて
- 20日・21日 沖縄県平和祈念資料館新館開館10周年記念特別展
- 27日・28日 障害者週間の集い

テレビ放送時間 RBC 6:15 QAB 25:55 OTV 6:45

詳しくは沖縄県ホームページへ <http://www.pref.okinawa.jp/> トップページ▶広報・広聴について▶広報誌、テレビ番組等

県広報課 〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 TEL.098-866-2020 FAX.098-866-2467 kouhou@pref.okinawa.lg.jp

ラジオ県民室

お昼のひととき、県が実施する行事や募集のお知らせなどを行っています。
放送時間/毎週月曜日～金曜日
ラジオ沖縄 (864KHz) 11:50～11:55
RBCラジオ (738KHz) 11:55～12:00
F M 沖縄 (87.3MHz) 12:55～13:00

ご意見・ご提言 募集
●県政に対するご意見・ご提言をEメール、FAX、手紙などで募集しています。
●あて先 県民ご意見箱、知事へのたより
※記入様式などは、ホームページをご覧ください。



沖縄国際アジア音楽祭
平成23年3月18日～20日開催!



沖縄国際アジア音楽祭
平成23年3月18日～20日開催!



食物アレルギーをもつ子どもに旅の楽しさを

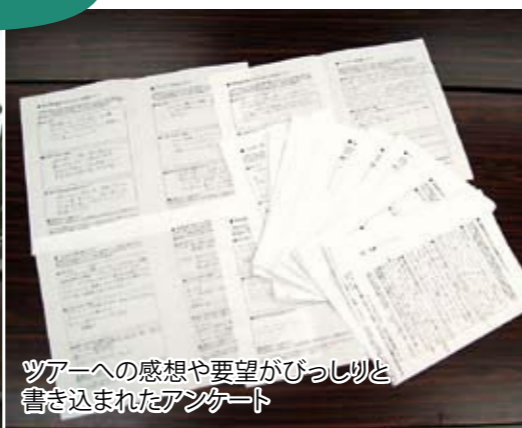


アレルギーを持つ子どもたちも、安心して食事や旅行を楽しめる



染川幸彦さん

ホテル同士の団結も強まりました!



ツアーへの感想や要望がびっしりと書き込まれたアンケート



対応できる調理スタッフをもっと育てたい!

お部屋の対応にも気を配ります!

左から、稲福勝也さん、平良至さん



卵や大豆、エビなど、10品目を使用しないメニューを各ホテルで用意

子どもたちの笑顔がすこうれしい!



大関達也さん



優しさがあふれる島だからできること

役立つ情報をもっと提供していきたい!

左から、平良博一さん、饒平名留美さん



食物アレルギー対応委員会(久米島町)

「食物アレルギーをもつ子どもや家族に旅の楽しさを」全国に先駆けて取り組む久米島町の挑戦

人・モノ・文化 地域物語

つながる広がる

他の離島とは違う発想、サービスのめざして

美しい砂浜「はての浜」や畳石など豊かな自然が魅力の久米島。食物アレルギーへの配慮を観光に取り入れたツアーが話題です。

久米島の観光振興策を話し合う場で、「食物アレルギーの子どもを連れて旅行ができない」という声を聞いた平良博一さん(食物アレルギー対応委員会委員長)。他の離島とは違うサービスをめざし、ホテルやNPO、航空会社や病院、役場などの職員で構成する委員会を発足。委員会で考案した「食物アレルギー対応ツアー」は、経済産業省の補助金を受けて、本土の専門医や家族会を招いた勉強会やモニターツアーを経て、平成二十年からツアー商品として販売しています。

限られた材料や調味料でおいしさに挑戦

ツアーで提供されるメニューは、アレルギー十品目(卵・乳・小麦・そば・落花生・大豆・ゴマ・ナッツ類・エビ・カニ)を二次原材料からも使用しないメニューを、各ホテルのシェフが独自に開発。

現場で求められる「こまやかな心配り」

「アレルギーという言葉に敏感な本人やご家族への配慮を心がけた」と話すのは、イーフビーチホテルのアレルギーツアー担当の大関達也さん。アレルギーを「A対応」と呼び、子どもたちには名前前で話しかけてフレンドリーに対応。うれし涙を見せるお客さまを見て「このツアーは仕事冥利に尽きる」と感じたそう。

サイプレスリゾートの総支配人、染川幸彦さんは、「この島だからできるツアー」と地域が一体となるままとまりの良さを評価。「コンシェルジュとの連携で情報を共有し、スムーズな受け入れを心がけています」。「ツアーの実現でメンバーに成功体験の共有が生まれた。この仲間なら何でも実現できるという想いが大きな財産」と平良さん。メンバーの一体感が対応の難しいツアーをしっかりと支えていました。

お問い合わせ
久米島町観光協会内
食物アレルギー対応事務局
電話:098-9857115

「アレルギーの知識はそれまで全くなく、不安やプレッシャーがあった」と話す久米アイランドのシェフ、稲福勝也さん。アレルギーの正しい知識や対処法を学び、材料が混入しないよう、厨房では仕込みの場所や調理時間、調理者や調理器具を分けて対応しています。また、大豆を使った味噌やしょうゆの代わりに、昆布だしや米しょうゆなどで味付けを工夫。事前の仕込みで調理時間を短縮するなど、現場の対応も万全です。

お客様と久米島をつなぐコンシェルジュの存在

観光協会の饒平名留美さんは、来島希望者に対して、食物アレルギー対応に関する情報提供や病院を含む対応関係者への情報伝達・共有を行う「久米島コンシェルジュ」。「最初の頃、安全性にこだわった対応をして、ルールに縛られている」とお客さまに誤解を与えて怒らせてしまったことも。今思えば、気持ちを伝えるための言葉が足りなかったのかもしれない。アトピーの娘をもつ自身の経験からツアー参加家族の気持ちに寄り添い、委員会の仲間に支えられて百六十三家族(モニターツアー含む)を受け入れてきました。「家族旅行なんて夢のよう」「子どもが笑顔で食事をする姿に感動」と

編集後記

最近思い立って始めた家庭菜園。土やプランター、種などすべて100円ショップで購入。種をまいて約1週間で発芽。毎日ぐんぐん成長するので朝晩の水やりにも精が出ます。収穫までまだ時間がかかりそうですが、我が家の自給自足の第一歩。収穫が楽しみです!(momo)

県では、職員が県民の皆さまのもとに直接出向き、県が重点的に取り組む事業などについて説明する「おきなわ県政出前講座」を実施しています。詳しくは、県広報課までお問い合わせください。(イナイナイバー)

沖縄県広報誌
平成22年11月1日発行第34巻11号通巻422号

美島沖縄

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
TEL.098-866-2020
●表紙 写真・秋尾慶太
●表紙 撮影協力・特定非営利活動法人 アクアプラネット <http://www.aqua-planet.org/>

アンケート

「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。
パソコンはこちら
<http://www.pref.okinawa.jp/churahome/>

